

「Insurance API Organization」発足 マーシュジャパン、hokan、アイリックコーポレーション

保険業界のデジタル化推進 保険エコシステムの形成目指す

マーシュジャパンは1月16日、インシュアテック企業のhokan、API接続のバイオニアとして知られるアイリックコーポレーションと共同で「Insurance API Organization」を発足したことを発表し、同日、ミッドタウンカンファレンス(東京都港区)で第1回会合を開催した。同組織は、保険業界でのAPIによる利便性や技術的な課題、運営についての理解を深め、組織参加者同士や隣接業界でのAPI接続を模索することをミッションに定め、将来的にはオープンAPIを視野に、全てのステークホルターとメリットを共有しながら新たな保険エコシステムの形成を目指すという。第1回会合には保険業界関係者を中心に150人を超える参加者が集まった。

れを作り出していくことが必要だと考えている」と組織発足への思いを語った。

次に、組織について、マーシュジャパンクライアントエクゼクティブの出口カルナ氏が紹介し、今後は、マーシュジャパン、hokan、アイリックコーポレーションの3法人が幹事会社となつて、年1〜2回の頻度でイベントを開催する予定で次回は夏の開催を予定していることや、組織の入会費・年会費は無料、イベントへの参加料も無料となっていることなどを説明した。

第1回会合の企業と垣根を超えたデジタル化の推進について、マーシュジャパン代表取締役社長中西氏は「マーシュがこのように中期的な戦略に投資するのは珍しいことだが、グローバルでデジタル化を推進していくという決意の表れでもある。必ずしも営利目的というだけでなく、多くの皆さんが集まって一つの目標に向かって議論し、新しい流れ

続いて、アイリックコーポレーション取締役営業本部営業企画管理兼ソリューション事業部長の建部賢二郎氏が「API接続に対する取り組みについて」と題して自社の施策を紹介した。後半に行われたパネルディスカッションでは「損保業界でのAPI接続とその展望について」というテーマについて、マーシュジャパンバイス

「API連携をすると、いまのしくみがどのように変わるの?」



損保会社を交えて行われたパネルディスカッション



満席の会場

プレジデントの樫井庸佐氏をモデレータに、SOMP Oシステム取締役副社長執行役員CTOの小澤淳氏、Chubb損害保険リージョナルCIO兼執行役員ノエル・ケレイタ氏、東京海上ホールディングス事業戦略部長兼デジタル戦略室長の渡部光明氏、三井住友海上デジタル戦略部長の加藤大輔氏が意見を交わした。

樫井氏からの「API連携をすると今の仕組みがどのように変わるのか」「日本のマーケットで大きなシェアを占める日系損保の立場から見たAPI連携のメリットは何か」「伝統的なビジネススキームからの変化はどのようなものか」といった質問に対し、参加者の意見を真摯に語り合った。

最後にマネーツリー事業部長兼常務取締役・共同創業者のマーク・マクダット氏とhokan代表取締役CEOの尾花政篤氏による対談「保険APIがもたらす一般消費者へのインパクト」が行われ、両者は海外事例の紹介を交えつつ、今後の展望についてそれぞれの考えを語った。